

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

京都市

学校名

京都市立藤ノ森小学校

人権課題

子ども

対象学年・
取り扱った教科等

全学年・総合・国語科・社会科他

目標・人権教育のねらい

- ・全ての児童が家庭環境や経済的な事情等に関わらず、自身の豊かな人生を切り開いていける「学力向上」を目指す。
- ・子どもたちが自信をもって成長し、より良い社会の担い手になるよう「自己肯定感の醸成」を目指す。

実施した内容

- ・授業研究を通して①共創型の対話を通して、伝え合う力を高める。②多面的・多角的な考え方を重視し、多様性を認める力を培う。
- ・総合的な学習の時間を中心にカリキュラム・マネジメントを行い、教科を超えて学習の基盤となる資質・能力の育成を目指すとともに、学校教育活動全体の中で子どもに活躍や成長を認める取り組みを行った。

工夫した点

- ・児童に「多様性を認め合う力」「課題解決能力」「コミュニケーション能力」をつけるため、思考ツールの活用や、対話が生まれる発問の工夫等を授業に盛り込んだ。
- ・人や社会事象と意図的に出会わせる機会をつくり、児童の主体的な探究活動につながるように単元の流れをデザインした。
- ・学年での学びを全校に伝えることで、学校全体として人権に関する意識の高揚につなげた。
- ・保護者・地域を巻き込んだ取組となるよう人権学習での成果を積極的に発信した。

他教科との
関連

特別の教科道徳・学活

事業成果

- ・知識的側面：各学年での学びを交流することで、正しく知る第一歩を踏み出すことができた。
- ・価値・態度的側面：各種のアンケートの結果から心のプラス面での変容を確認することができた。
- ・技能的側面：学校生活の中にある問題解決のために何をしなければいけないのかを常に問いかけ、考える機会を持たせたことで、理解したことを実践しようとする姿が見られるようになった。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

京都市

学校名

京都市立藤ノ森小学校

人権課題

高齢者

対象学年・
取り扱った教科等

小学校3年生・総合的な学習

目標・人権教育のねらい

- ・高齢者について知り、高齢者の方々と関わる中で、自分たちにできることを考える。
- ・高齢者の身体的特性や、高齢者の方々が暮らしやすいための施設の工夫、施設の職員の方々の工夫を知る。
- ・高齢者体験をしたり、施設訪問を行ったりして自分の考えを深め、考えを伝え合う。

実施した内容

- ・人権教育の視点から少子高齢化の社会情勢を学びに結び付け、地域の高齢者の活動を知り、高齢者の思いにせまるため、生活に密着して調べた。(9H)
- ・社会科の視点から、地域の高齢者をゲストティーチャーとして招いたり、老人福祉施設の見学や交流をしたりして、認知症や高齢者福祉に関わる学びを深めた。(10H)

工夫した点

- ・社会福祉協議会と連携し、社会科の学習を通じて高齢者の方との交流の機会を持った。
- ・地域の高齢者施設の協力を得て、「お年寄り体験」「認知症の学習」を行った。
- ・高齢者福祉の課題にばかり目がいってしまうことがあったが、指導者は、マイナス面だけに目を向けるのではなく、高齢者の豊富な知識や経験に気付き、地域の一員として自分ができることは何かを考えられるように展開をデザインした。

他教科との
関連

- ・社会科「市の様子とくらしのうつりかわり」

事業成果

- ・知識的側面：高齢者の身体の変化や認知症に関する理解を深められた。
- ・価値・態度的側面：体験学習やゲストティーチャーから学ぶことで社会の中での多様性を認め、支援するためにできることを実践しようとする態度が見られるようになった。
- ・技能的側面：どのような声かけや支援が必要なのか具体的に学ぶことができた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

京都市

学校名

京都市立藤ノ森小学校

人権課題

障害者

対象学年・
取り扱った教科等

小学校4年生・総合的な学習

目標・人権教育のねらい

- ・藤ノ森は住みよいまちであるか考える。
- ・障害のある人たちに出会い、実態を学ぶ。
- ・やさしいまちづくりのために自分たちができることを考える。
- ・藤ノ森に住んでいる地域の方の願いを知り、共に住みやすい場所になるように生活しようとする。

実施した内容

- ・パラリンピックの開催を機に、車いすバスケットボール選手による体験学習とワークショップを通して課題設定につなげた。これをきっかけに身体障害、視覚障害等、子どもの探究プロセスの方向性を定めた。
- ・新しい車いすの開発に取り組み、アイデアを盛り込んだ提案を行った。

工夫した点

- ・障害＝マイナスととらえるのではなく、生きがいや、楽しさに触れることができるよう車いす体験に車いすバスケットボールを組み込んだ。パラリンピック開催前ということもあり、子ども達が興味を持ってパラスポーツに出会う機会を設定した。
- ・子ども達が考えたアイデアについて、車いすバスケットの選手からアドバイスをもらいさらに深めることができた。

他教科との
関連

図工科「言葉から形・色」（人権ポスター作り）国語科「思いやりのデザイン」

事業成果

- ・知識的側面：実際に障害のある方と交流することで、障害についてより深い理解につながった。
- ・価値・態度的側面：障害を個性ととらえ自分たちにできる支援について考えアイデアを交流し、さらに学びを深めていこうとする意欲が高まった。
- ・技能的側面：具体的な支援の方法や声のかけ方を学ぶことで、日常生活での実践の可能性が向上した。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

京都市

学校名

京都市立藤ノ森小学校

人権課題

同和問題

対象学年・
取り扱った教科等

6年生・社会科・教職員

目標・人権教育のねらい

- ・6年生社会科で同和問題に関連する8単元の学びの充実
- ・同和（部落）問題に関する正しい知識と理解
- ・低学年からの人権学習の素地作りの充実
- ・教職員の関係単元に関する学び直しの実施

実施した内容

- ・6年社会科8単元について、今までの授業実践を生かし授業を展開した。「全国水平社」は授業研究として全教職員で検証を行った。
- ・教職員研修としては、一人芝居「最期のひとこと」を鑑賞し、演じられた古森義和氏とワークショップを行い同和問題に関する理解の深化を図った。
- ・月1回、全学年共通した領域を扱った人権学習行う「オンリーワンタイム」を実施した。

工夫した点

- ・6年社会科8単元について、本校で培ってきた実践をもとにさらに積み上げる形での取組を行った。研究授業では、事前授業の段階から指導助言を経て、より充実した授業づくりを行った。子どもの思考をより深める「問い」に焦点を当てた。
- ・単に演劇鑑賞だけでなくワークショップを取り入れた。
- ・「オンリーワンタイム」の内容について、実施後検討を加えた。

他教科との
関連

「オンリーワンタイム」・・・道徳科・学活

事業成果

- ・知識的側面：部落差別について、様々な側面から学びを深めることができ、解消されていない現実を知ることができた。
- ・価値・態度的側面：正しく知ること、偏見や差別は許されないということを認識できるようになった。
- ・技能的側面：差別がいまだにあるということを認識し、物事を正しく捉え、判断する素地が育成できた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

京都市

学校名

京都市立藤ノ森小学校

人権課題

外国人教育

対象学年・
取り扱った教科等

小学校2年生学活・教職員

目標・人権教育のねらい

- ・ 韓国の衣食住や遊び、文字に出会い、楽しみながら韓国の文化に触れ、親しむ。
- ・ 教職員が在日コリアンの歴史や文化について学ぶとともに、現状と課題について理解を深める。

実施した内容

- ・ パワーポイント等を用いて韓国の衣食住について学習した。
- ・ 遊びや文字、あいさつの言葉など学習した内容について発表した。
- ・ 教職員研修として、ウトロの平和祈念館を訪問し、現地実習したことを、資料やプレゼンを用いて校内で伝達研修会を行った。

工夫した点

- ・ 遊ぶ道具や衣装などできるだけ実際に使用されているものを準備した。
- ・ 視覚に訴える資料を用意したり、子どもたちが体験できる場面を設定した。
- ・ 北朝鮮による拉致問題の研修会と抱き合せで研修会を持ち、在日の問題と拉致問題について多面的に考える機会を持てるようにした。

他教科との
関連

国語科：スーホの白い馬・スイミー（外国の文学作品）

事業成果

- ・ 知識的側面：衣食住や文化等に触れることで韓国・朝鮮の文化への理解を深められた。
- ・ 価値・態度的側面：多文化に触れることで違いや多様性を認めようとする態度が見られるようになった。
- ・ 技能的側面：文化の似ている所や違いを見つけ積極的に認めようとする態度が見られるようになった。教職員においても、実地研修の持つ力を伝えることで積極的な学びの啓発に繋がった。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

京都市

学校名

京都市立藤ノ森小学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等

小学校5年生・学活

目標・人権教育のねらい

- ・ 高度に情報化する社会生活の中で、情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解する。
- ・ 身の回りのあふれる多くの情報に適切に対応できる力を養う。
- ・ 情報の取扱いに対する責任を自覚し、望ましい情報社会の創造に参画する基本的な考え方や態度を培う。

実施した内容

- ・ 携帯電話会社による出前授業
- ・ SNSトラブルの実際と個人情報に関する学習

工夫した点

- ・ 保護者の関心も高い内容のため、11月の人権啓発授業に位置付け、保護者啓発も兼ねて実施した。
- ・ 教職員研修会では、SNSトラブルが人の命をも奪う。という子ども達に関わるものとして危機感を持つことのできる内容で行った。
- ・ 単なる講義ではなく、ワークショップを取り入れることで内容を深められるよう計画した。

他教科との
関連

社会科：『情報を生かす産業と情報を生かすわたしたち』

事業成果

- ・ 知識的側面：身近な問題であり、自分事として正しい知識を素直に吸収することができた。
- ・ 価値・態度的側面：携帯やSNSのプラス面とマイナス面を知ることで、その価値をすぐに行動に生かすことができた。保護者にも参加してもらったことで、親子で価値を共有することができた。
- ・ 技能的側面：正しい情報の見極めや人を傷つけない発信について基準を学ぶことができた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

京都市

学校名

京都市立藤ノ森小学校

人権課題

性的指向・性自認

対象学年・
取り扱った教科等小学校5年総合的な学習
保護者研修

目標・人権教育のねらい

- ・色々な性と、人と人とのつながり、自分らしさについて考える。
- ・LGBTについて知り、様々な価値観や考え方があることを知る
- ・ゲストティーチャーの話や集めた情報をもとに、自分の生き方や友だちや社会に対する関わり方を見つめ直す。
- ・集めた情報や考えたことをまとめ、伝える。
- ・自分らしい生き方とはどのようなものか考え、実践していくことができるようにする。

実施した内容

- ・性的指向、性自認について、その多様性について考えよう。（10時間）
- ・自分らしさとは何かを考え、自分の意見を発信しよう。（15時間）
- ・調べたこと、まとめたことについて交流し、多様性を認めるために大切なことは何か考えを深める。
- ・当事者の方を招いてのワークショップ（児童向け・保護者向け分けて実施）

工夫した点

- ・本校児童のカミングアウトをきっかけに「LGBTQ」の取組は4年目となる。この学びの最大のポイントは当事者との出会いである。このファーストコンタクトは子ども達にとって性的指向、性自認の多様性を認める大切な出会いとなるため、適切な出会いの場となるよう機会設定を行った。女性として生まれ、今は男性として生活している方をゲストティーチャーに招きワークショップを行うことが、学習での学びを、作文やポスターを通して発信する原動力となっている。

他教科との
関連

図工科「言葉を絵や形に」国語科「あなたはどうか考える」

事業成果

- ・知識的側面：性の多様性への理解を深められた。
- ・価値・態度的側面：性の多様性を認めようとする態度が見られるようになった。
- ・技能的側面：性の多様性について、自分たちの学びをより多くの人に広めるためにポスターを描いたり作文を書いて発表会で交流したりして、しっかりアウトプットすることができた。